

親孝行介護 株式会社 filial

私の名前には親孝行の「孝」の字が入っています。だからというわけではありませんが、昔から親孝行のことを常に思い、意識していました。18歳でこの仕事を始めてから特にその思いは強くなり、子供としての当然の「フィリアルケア（親孝行介護）」をしていきたいという想いから社名を「フィリアル（孝行）」にしました。と信念に輝く目で仰るのは介護付有料老人ホームを運営されている株式会社 filial の代表取締役松尾孝洋さん。

はじめは、介護がしたくて入った業界ではなく、やりやすい仕事はないかと探していたところこれかなと思った。

何気なくはじめた仕事だったが、介護の仕事に取り組んでいる内に辞められなくなった。おもしろい！元々人と話しをするのが好きだったが、こうやってお年寄りと会話をする事が人助けになる、こんな楽しい仕事があるのかと思った事が、介護業にはまるきっかけとなった。若くで結婚して子供も早くに授かったので、はやく仕事をしなければならなかったし、何より子供に誇れる仕事をしたかった。高校を卒業して直ぐに、当時訪問介護最大手の企業で京都に勤めたが、やっとセンター長という立場になったときに、その会社が他の大手介護事業者等へ分割譲渡されることになったことを機に離職。その後、大阪に出て来て高齢者向けの住宅の営業を経験した。最初に研修で行った施設のサービスがとても事務的で無機質なものであった為、その研修を終えた後も、これでは駄目だという思いが強く残り、自分が良いと思う施設作りがしたいと思うようになった。

「善幸苑 諸福」

株式会社 filial は、美善グループに属している。それぞれの経営者が運営する施設同士が、グループとしてお互い足りないところを補いあう運営方法をとっている。

松尾社長は現在26歳、7年間介護業界で修行されて、平成24年5月15日に「善幸苑 諸福」をオープンされた。

全室18室。スタッフは25名。その内社員は7名。ここでは、毎日最低昼間5名以上、夜間2名以上のスタッフが常駐するようにしており、その時々々の状況に応じてなるべく多く置くようにしている。食事は冷凍食品を暖めるのではなく、業者から配達されるその日のメニュー材料を施設内の食堂で調理して出す。利用者さんの状態に応じて、細かく刻んだりミキサー食にするなど、きめ細やかな対応をしている。

「経営者の顔」

経営面では維持費や空家賃等いろいろ難しい問題がある。また、保健事業なので、お金が入ってくるのはスローペース。2月に行った介護内容は、4月の後半に入金されるという状況。レセプトなので実際お金が入ってくるのは2ヶ月後。書類の不備で撥ねられることが時たまあるが、その書類不備が分かるのが提出後1ヶ月経った頃。その後、書類を直して提出してそれから入金があるまでまた2ヶ月かかるので、入金まで4ヶ月かかることがあり、資金的キャッシュフローが厳しい時もありますと苦笑いされる。これは松尾社長の経営者としての悩みだ。

「自分が入りたくなる施設作り」

最初は自分の両親を入れることが出来る施設を作りたいと思っていたが、今では自分が入りたい施設を作ろうと思うようになった。介護事業は商業ベースで大きな規模で運営され大々的に広告宣伝している事業者もいるし、大手病院等資金力のある所等には太刀打ちできない。だから小さくても利用者さんに選んで頂けるような施設作りを心がけている。施設を見学に来られた方にも、是非入居してくださいと強く勧めることはない。ご自身やご家族が実際に来られて、サービス等を見て感じて頂いて、ここに入りたいと思ってもらえるような施設運営に全力を尽くしている。安心して介護を受ける事が出来る施設。夜安心して眠れる建物作り。そして、不安を感じさせないケア。利用者さんの声を聞いて、何か必要か感じ取る事を最大のポイントとしている。例えば、散歩の時間だからと、無理矢理引っぱっていくのではなく、利用者さんがまずどうしたいのか？を尋ね、じっと観察する。すると、利用者さんのほうからずっと手を出されたり、今望まれていることを感じ取ったり、聞き取ったりすることが出来る。利用者さんの意志を優先的に考えさせて頂き、その中で我々がどうサポートできるかを考える事を大切にしている。

「気づきの介護-人生の晩年をより良く過ごして頂くお手伝い」

何事も利用者さんの様子を見ながらやっています。ヘルパー本位の介護ではなく、あくまでも主役は利用者さん。小さな何気ない事の気づきを大切に、言葉が少なくなった方は、自分からは声を上げられない、だから気がついてあげるように気を配っている。今日の体調はどうか？今、どうしたいと思っているのか？介護のプロとしての誇りをもって、ひとりひとりに手を抜かない介護を心がけていれば、報告書「今日はお元気でした」とが変わりません」といった記述は出来ないはず。「ここでじっとしていてね。」「部屋にいてね」等と、こちらの都合を優先するようなことも同じ理由から絶対に言わないようにしている。人が生きている限りは、昨日と今日・午前中と午後等では、何かが違うはずだ。例えばAさんは今日いつもよりテ



レビを見ている時間が長いとか、ヘルパー同士いろんな情報を交換し、「気づき」を共有するようにしている。

厄介者の世話をしているのではなく、「人」として人生の晩年をより良く生きて頂くお手伝いをしているのだ、との強い信念で日々過ごしている。全くお話をされない方が、ヘルパーさんが声をかけ、じっくりと歌いたい曲を聞き出しその曲をカラオケに入れると少し声が出るようになった。これも一つの「気づき」。相手が何も言わなければ、何もしないというのは良くない。どんどん積極的に気付いていってあげて、より良い方向へ向くようサポートしてさしあげる。お風呂に入る事も一人で入りたいと言われる方には一人で入って頂いて外でヘルパーが待っている。何かあれば直ぐに助けられるようにしている。

時には他の施設で酷い介護状況を見る事がある。身寄りの無い方だと、酷い扱いを受けてもクレームがなかなか上がって来ないから、悪い部分が改善せず辛い思いをずっとされる方もいらっしゃる。

最近では、そういう酷い状況をマスコミが取り上げるようになってきたので、かなり状況は改善されてきていると感じます。

安心して介護を受けて頂くよう、危険と感じた方には2~3人掛けることもある。介護保険としては一人分しか出ないから、危険であってもヘルパーは一人しか付けません。これでは「介護」の意味が全くない。

又、こうも仰る。介護保険料に散歩は入っていない。要介護の方が散歩したいと望んでいらっしゃるのに、介護保険が出ませんから散歩は出来ませんとはどういう事か？だからうちは管理費の中から、散歩の費用を当てさせて頂いて、希望があればなるべく外出して頂くようにしている。ここは人生最後の思い出作りの場であります。少しでも楽しく満たされて過ごして頂きたい、と。

「地域交流」

現在、隣接する保育園との交流を計画中。歌をうたうとかちょっとした演劇を見せるような場所が隣の保育園にはないので、このホールでやってみてはどうかと話し合い、お互いが良い形で交流出来る方法を模索中で、大変楽しい企画だ。

「楽しい介護事業」

この介護の仕事は利用者さんと関わり合いが主な業務。それが自分の生活の中でいちばん長い時間になるので、介護に携わっている時間が楽しくないと、その気持ちが利用者さんに伝わらない。だから、スタッフのメンタルケアには、人一倍気を遣っている。時には一緒に食事にいったり、お酒を呑みにいったり。男性スタッフだけで話を聞く場合もあれば、時には女性スタッフとだけで食事に行ったりしてコミュニケーションをとっている。いろんな意見や気持ちを聞いて、運営に反映させている。コミュニケーション一つで、仕事がうまくいったり行かなかったりする事がある。仕事が楽しくないと介護事業の意味がない。

職員の誕生日には、皆で御祝いをするようにしている。スタッフとのコミュニケーションをとって大切に使っている。

フィリアルのスタッフの中に16歳から始めて今19歳になったスタッフがいる。側で見ていると利用者のお年寄りからいろいろ教えてもらっている。世の常識といった事を利用者さんから教えてもらって、社会人として成長している。私もいろいろ教えてもらっている。と頷かれる。

人生のお手本である高齢者の方に、ここで幸せのお手本になって頂く。今、居るお年寄りが幸せじゃないのに、その後に関わ我々が高齢者になったときに幸せになれるはずがない。

「親孝行の介護」弱冠26歳の松尾社長のこの信念は揺るがない。こういった素晴らしい信念をもった経営者がもっと活躍できるよう心から願い、また微力ながら私達もそのお手伝いをさせて頂きたいと強い想いを胸に覚え今回の取材を終えた。

株式会社 filial

代表取締役 松尾 孝洋

本社:〒573-0107 大阪府枚方市長尾宮前1-6-2

TEL:06-6785-7938

住宅型有料老人ホーム「善幸苑 諸福」:

〒574-0044 大阪府大東市諸福5-8-22

TEL:072-875-6911

月額費用:家賃42,000円/管理費

30,000円/食費37,800円(30日分)

※医療費・介護保険費・消耗品等は含まれていません。

●入居希望の方は、TEL:072-875-6911までお問い合わせ下さい。

